



お話を伺いました

くにたち男女平等参画ステーションパラソル
ステーション長
木山直子さん(左)

パラソルが入る「国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ」の窓やオープンスペースにはスタッフによる展示が。「駅までの道すがら、また市の窓口に立ち寄った際に自然にジェンダーや人権といった話題に触れ興味を持ってもらえるように工夫しています。ぜひ見てみてください」と、副ステーション長の川和さと美さん(右)。

「相談事業は他市でも行っていますが、相談員が常駐している施設は珍しいんです」と木山さん。



明るい雰囲気のパラソルの窓口

ジェンダー平等を目指す
自治体の取り組み

2018(平成30)年、国立市は性別に関わらずすべての人が自分らしく暮らすことができる社会を築くため、「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」を施行し、その拠点施設として、JR中央線国立駅の高架下に「くにたち男女平等参画ステーションパラソル(以下、パラソル)」を開設しました。国立市の男女平等に対するこうした動きは、全国的に見ても先駆的な取り組みです。パラソルでは、市民からの様々な悩みごとを聞く相談事業を中心に、展示や講座、情報発信などで多様性や平等について伝えています。

国立市の条例とパラソルの役割について、ステーション長の木山直子さんは次のように話します。

「条例では性的指向や性自認のカミングアウト(公表)の自由と権利を保障するとともに、日本で初めてアウティング(本人の意に反し他人が公表すること)の禁止についても定めています。そうした背景のもと、当施設は守秘義務のある相談機関として開館時間を通して随時相談を受け付けています」

開設初年度に約500件だったパラソルへの電話相談は徐々に増え、2021(令和3)年度は1100件以上の相談が寄せられました。その相談内容の多くが「ジェンダー規範に関わるもの」と木山さん。

「例えば、お母さんらしくない」「自分について悩んでいる、女性だからしてはいけないと思う、解決できないこと、夫や息子に求めてしまう、男らしさ」にまつわる相談など、それぞれ

が抱えてきた「らしさ」にとらわれていることによる悩みがほとんどです。また「SOGIハラ」といわれる性的指向・性自認に関するハラスメントの相談もあります。他人や周囲の環境から求められる「らしさ」に応えなければと苦しんでいる方がとても多いと感じます」

“らしさ”は誰のもの？
すべての人が尊重しあえる
社会に向かって

多様性を理解し
認め合える土台をつくる



オリジナルキャラクター「クニコーン」
幅広い世代が理解を深められるよう、多様な性がテーマの展示などに登場する。

国立市ではジェンダー教育にも力を入れており、市内の公立小中学校の児童・生徒や、保育園や学童保育の職員に向けてパラソルの職員が出張講座を実施しています。

「らしさ」は他人から決められるものではありません。あなた自身が

ロゴマーク
「迷いや悩みを抱えた人が性別にとらわれず安心して集える場所となるように」との想いが込められている。



Check! 用語解説

SOGI(ソジ/ソギ)

誰もが持つ性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)のことで、性的マイノリティなど特定の人を示すのではなく、すべての人の性のあり方を表現した言葉。人の存在や人格に関わるSOGIを尊重すべきだという認識が、近年広く呼びかけられている。

LGBTQ(エルジービーティーキュー)

性的マイノリティを表す言葉の一つ。L(レズビアン：女性同性愛者)、G(ゲイ：男性同性愛者)、B(バイセクシュアル：両性愛者)、T(トランスジェンダー：身体の性と感じる・思う性が異なる人)、Q(クエスチョニングまたはクイア：性的指向や性自認が定まらない人など)の頭文字からきている。

Ally(アライ)

性的マイノリティを理解し、支援したいと思う人のこと。

パラソルオリジナルのアライ缶バッジ。身に着けることで理解者や支援者であることをさりげなく表すことができる。



自ら持ちたいと思う「らしさ」を大切にしてほしい、というメッセージを、講座でいつも伝えるようにしています」と木山さんは言います。

また、2022(令和4)年5月から、多摩地域の複数の自治体が連携したユース世代(10代〜23歳)のLGBTQ当事者限定の居場所づくりが始まりました。特に支援が必要な年代の当事者たちが近隣地域の仲間と出会い、交流することを目指しています。

誰もが家庭や地域のなかで自分らしく暮らしていくためには、時間をかけて社会にジェンダー平等というペーシスを築いていくことが重要です。こうした多様な性に対する理解や支援の取り組みは、そのための第一歩です。

多様な性ってなんだろう？

一般的に、人は出生時の身体的特徴などから男女を判別して戸籍上の性別が決められますが、性のあり方には、右のように大きく分けて4つの要素があるといわれています。これらは人がそれぞれ自然に持っているもので、その組み合わせにより様々な性がたちづらわれています。人は一人ひとりに個性があるように、性のあり方も人それぞれです。



身体の性
(身体的性)

生まれた時の身体的特徴などによって判断される性で、「生物学的性」と呼ばれることも。その発達は人それぞれです。

好きになる性
(性的指向)

恋愛感情や性的な関心の対象となる性。異性に向く、同性に向く、その両方に向く、またいかなる性別の人にも向かないなど様々です。

感じる・思う性
(性自認)

自分のことを女性だと感じるか、男性だと感じるか、どちらでもない(ある)と感じるかなど、自分が認識する自分の性。身体の性と一致する人もいれば、一致しない人もいます。

表現する性
(ジェンダー表現)

服装や言葉遣い、仕草など、自分が表現したい見た目の性的特徴。多くは性自認と一致しますが、一致しないこともあります。

4つの性の要素の組み合わせに決まりはありません。これを「多様な性のあり方」といいます。